

[少花粉ヒノキにおけるコンテナ育苗技術の確立]

少花粉ヒノキコンテナ苗の植栽後の生育

畑 尚子・中村健一・新井一司

(緑化森林科)

---

【要 約】 植栽後のコンテナ苗の生長状況を把握するため、裸苗の生長と比較した結果、コンテナ苗は裸苗に比べ、4月植栽、8月植栽共に活着率の優位性が示唆された。また、植栽初年では、コンテナ苗は、樹高生長より根元径生長を優先することが示唆された。

---

【目 的】

林業の低コスト化が求められているなか、活着が良いとされているコンテナ苗が注目されている。また、東京都では森林循環促進事業の一環として、少花粉品種による苗木植栽が行われている。ここでは、少花粉ヒノキの裸苗とコンテナ苗を林地に植栽し、生長量および活着率を比較することで、植栽後の少花粉ヒノキのコンテナ苗の特性を明らかにする。

【方 法】

調査は、日の出町内の試験地（標高 250m，傾斜 25°，西向き斜面）にて行った。2015年4月に少花粉ヒノキのコンテナ苗（マルチキャビティコンテナ 300cc で育成），対照として裸苗（路地の苗床で育成）をそれぞれ 15 本植栽した。8月にはコンテナ苗 12 本，裸苗 15 本を植栽した。調査は、活着状況，樹高，根元径の3項目について行い，4月に植栽した苗については植栽直後（活着状況については植栽 13 日後），8月，11月の3回，8月に植栽した苗については植栽直後（活着状況については植栽 18 日後），11月の2回行った。

【成果の概要】

1. 活着率：4月，8月植栽苗のいずれも，裸苗よりコンテナ苗が11月時点での活着率が高かった（図1）。これは，コンテナ苗は根鉢をつけたまま植栽するため，根に対する損傷が少ないことや，根鉢に含まれる培地が乾燥を防ぐことが理由として考えられる。
2. 樹高，根元径生長：4月植栽の苗について，コンテナ苗，裸苗とも同等な樹高生長，根元径生長を示した（図2，3）。8月植栽の苗についても，コンテナ苗，裸苗は同等の樹高生長，根元径生長を示した（図4，5）。
3. 樹高と根元径の比較樹高（H/D）：4月，8月植栽の苗の H/D の推移を図6と図7に示す。4月植栽の苗の H/D は，植栽時にはコンテナ苗の値が高かったが，11月には転じてコンテナ苗の方が低くなった。8月植栽の場合も，コンテナ苗の H/D が裸苗より低くなった。コンテナ苗は裸苗に比べ徒長気味だったが，樹高生長より根元径生長が上回った結果，値が逆転したと考えられる。また，4月植栽の苗はコンテナ苗，裸苗とも H/D が高くなったのに対し，8月植栽では両者とも H/D が低くなった。8月植栽時の水分不足等のストレスが，樹高生長より根元径生長へと資源投資に影響を与えたと考えられる。
4. まとめ：少花粉ヒノキについて，コンテナ苗は裸苗に比較し，活着率が高いことが示唆された。また，植栽当年において，コンテナ苗は，樹高生長より根元径生長を優先することが示唆された。コンテナ苗の生長特性を明らかにするため，今後も生長量の調査を継続する必要がある。

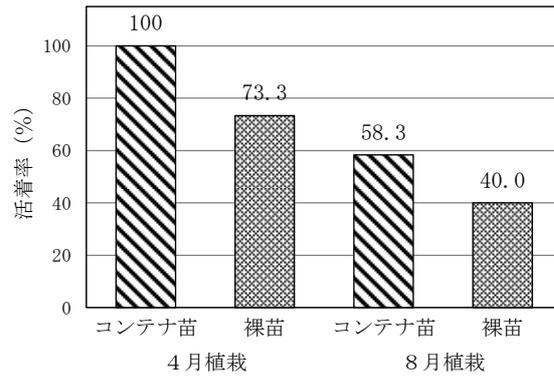


図1 11月時点での苗の活着率

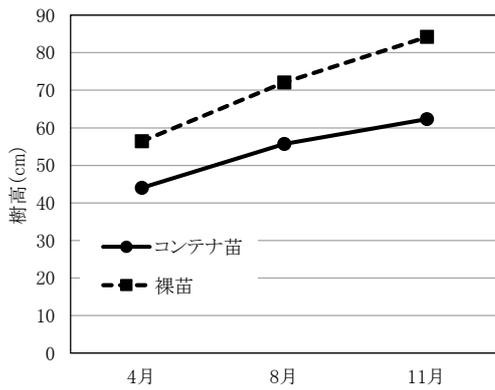


図2 4月に植栽した苗の樹高の推移

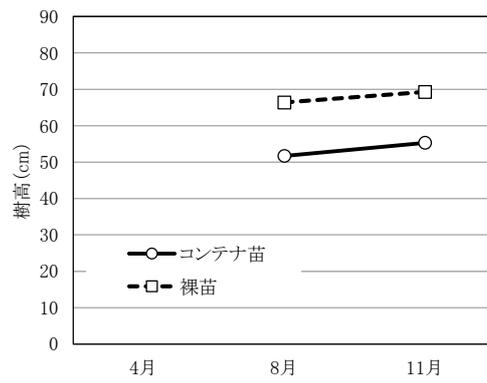


図3 8月に植栽した苗の樹高の推移

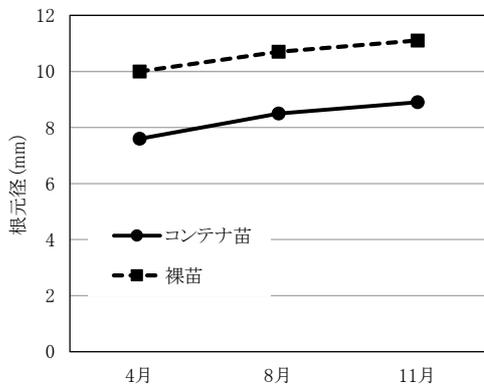


図4 4月に植栽した苗の根元径の推移

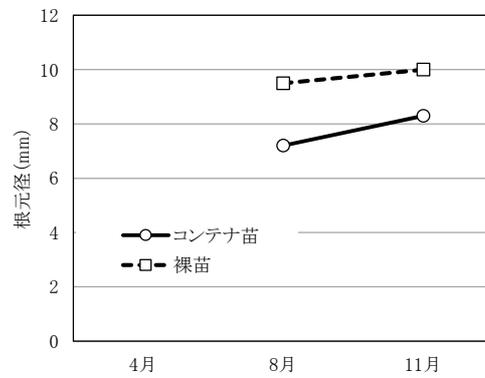


図5 8月に植栽した苗の根元径の推移

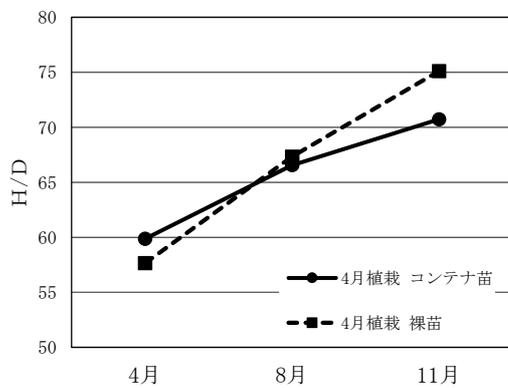


図6 4月に植栽した苗の樹高/根元径 (H/D) の推移

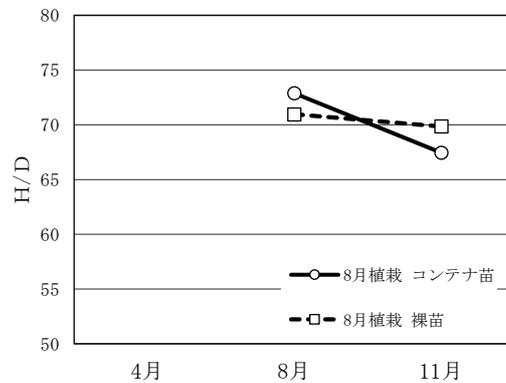


図7 8月に植栽した苗の樹高/根元径 (H/D) の推移